

安威ぼっぼ					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は常に理念の共有に努め、朝のミーティング、月1回のスタッフ会議、重要連絡事項の回覧、連絡帳などで理念の共有を実践している。事業所が地域の中で孤立することなく、様々な年齢層が訪れ、こちらからも出て行き、交流している。	ホームの理念は「ゆっくり、のんびり、自分らしく」で玄関に掲げている。職員にも理念の共有を図っている。今回の自己評価を掲示している。	理念は見やすいところに掲示されている。来訪者だけでなく職員も日々理念を意識して職務に取り組んでいる。外部評価も決定後は掲示されることを望む。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	利用者とともに、地域を散歩している。庭の花や植物を見せて頂いたりして住民の方たちと触れ合える機会をもつようになっている。自治会に入れて頂き、地域のいきいきサロンなどにも参加している。	地域の自治会にも入っている。地域で開かれている「いきいきサロン」は週に1回あり、時々行っている。これからは地域とつながりをもち交流を拡げて行きたい。	開所1年を経て管理者はこれから地域との交流を深めたいと考えている。認知症の専門知識を活かして地域の高齢者介護の相談会なども企画されて見られたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	様々な地域の交流会に積極的に参加するようにし、ボランティアなども受け入れをしていく。外部の方々を招き、演芸、楽器演奏を披露して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターや自治会長、福祉委員長などに、アドバイスを頂いている。地域の人達に知ってもらうためにもっとアピールするようにする。	運営推進会議は2ヶ月毎に自治会、福祉委員、地域包括支援センター、家族の参加を得て開かれている。ホームの報告、意見交換など充実した内容である。	会議の議事録の作成は不備である。市担当者の参加を得るためにも議事録を毎月届け、次回開催日をお知らせし会議への参加につなげられたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市の窓口や係長などに、様々な相談にのって頂いたり、助言を頂いている。介護相談員の方にも来て頂いている。	開所については市の指導を得、その後も相談に乗っていただいているが、運営推進会議の参加には至っていない。	介護保険の運用について相談に行ったり、法令の改訂に当たっても助言を得ることが必要となる、これからも市担当者との協力的関係を構築されたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	看護師を中心に研修し、常に職員が正しく理解出来るよう、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。鍵を掛けなくても転倒や事故が防止出来るよう、常に職員が目届く位置に居る様心がけている。一人で外出しそうな時は、話をして納得してもらっている。	管理者は全職員に正しい身体拘束の理解を周知している。転倒の心配も有り、現在玄関の鍵の開放には至っていない。そのほかの身体拘束はしていない。	玄関の施錠が身体拘束になることは職員も周知するところである。2階からの階段の閉鎖も含め今後如何にしたら開放できるか職員全員で検討していかれたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	市内の研修会で学び、それを持ちかえり、管理者と職員が内部研修会で、話し合ったり、研修の内容を全員に伝達している。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>様々な研修会に参加できるようにする。定期的に内部研修会を行い、研修の内容を全員で共有できるようにする。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前に「お試し利用」を勧めている。利用者、その家族に、現利用者と共に昼食をしていただいたりしながら、説明納得した上で利用していただいている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>職員、利用者と共に、家庭的な雰囲気を作り、自由に発言できる空気を作り、改善していつている。</p>	<p>家族がホームにこられたら要望を聞くようにしている。又どんな事でも言ってもらえる関係作りに努めている。</p>	<p>家族の要望、その対応を記録にも残されたい。家族が要望・苦情を話しやすい関係作りをさらに進められたい。玄関に茨木市民生活部介護保険課、大阪府国民健康保健団体連合会の苦情窓口を明記されたい。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>朝礼やスタッフ会議など、日々、お互いに意見を出し合い、利用者の生活改善に役立っている。</p>	<p>職員の意見を入れて職務分担表など業務改善に反映している。開所して1年、職員とともに作り上げてきたと管理者は実感している。</p>	<p>管理者が頑張っても一人では気づくことも限られてくる。職員の前むきな意見を取り入れ更に充実したグループホームへと成長されていかれることを期待する。</p>
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>運営者は管理者や職員と、なるべく多くの時間を共にするよう努力している。職員は利用者と一緒に習字や絵を描くなど、職員も楽しみを持ち過ごしている。おやつの際は利用者と一緒にお茶を飲みながら談話している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には、積極的に参加を促し、ミーティング時に報告している。資料を活用し伝達している。随時内部研修会をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市や地域主催の研修会にもさんかし、また、利用者の移転時などでは、相互訪問をするなど、交流を保っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>お試し利用時に、職員とマンツーマンの時間を取り、充分話を聞いている。また、利用に際し、不安が無いよう「いつでも電話対応など可能」ということで、安心してもらっている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者の自宅に赴き、家族とも一緒に考え、対応している。利用者の要望に、いつでも沿えるよう努力している。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者の自宅に赴き、家族とも一緒に考え、対応している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家庭的な雰囲気の中で、共同作業や出来る事は自分でしてもらい、皆で支えあう家族のような関係を築いている。また、食器洗い、洗濯物干しや、たたむ等の手伝いを、職員と共にして貰っている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会などの時、極力家族と共に話し合い、緊密化に努めている。電話相談にも常時応じて、安心感を持ってもらっている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>今まで通院していた病院に、ヘルパーと共に通ったり、住んでいた家の近くに、車でドライブをしたりしている。また、利用者の友人などに来てもらったりしている。</p>	<p>入居者の要望があれば車で元の家のそばに行ったりしている。お正月は帰宅願望者もなく家族が来てくれてホームでお正月を過ごした。</p>	<p>馴染みの場所に行くことやお友達が会いに来てくれることが入居者にとり懐かしく、又心が落ち着くのかもしれない。これからも支援の継続をお願いする。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>相性等もあり、座席の位置なども考えて生活してもらっている。出来ない事がある利用者には、他の利用者が助け舟を出したり、和気藹々とした関係が築かれるよう心配りをしている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院されたり、他の施設に入られたりしたときの面会、残された家族の様子を伺いに行くなどしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認し、個々にサービスを取り入れている。毎日の生活の中で自然に出てくる思いやりの精神を大切にしている。	入居者が何をしたいかを見つけて支援するようにしている。家事や、手芸・編み物も手助けしながら出来ることをしてもらっている。	「自分が高齢になったら」という視点で入居者と向き合うことが思いを汲み取ることにつながる。又職員同士が意見を交換することも大切である。全職員の研鑽を期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	サービス開始時に、これまでの暮らしについては情報を得るが、日々コミュニケーションをとる中で、新たな情報についても把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少人数ということもあり、日々の状況把握は密に出来ていると思っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ・職員・関係者等が利用者宅に向いたり、家族の方に来てもらった時などに、家族とも話し合った上で、介護計画を立てている。	介護計画は、3ヶ月6ヶ月で見直すが、急変時などはその都度見直している。看護師、介護士の意見、家族の要望を入れて作っている。医師の意見は内科、精神科の変調のない限り余り聞いていない。	介護計画は入居者本人、家族の要望、介護士の日々の観察に加え、医師の診察の意見も入れ作成されることは必要と思われる。介護計画は家族にも提示し同意の署名を貰いたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録表に、日々の介護実践を記録し、責任者名を記入している。また、共通のノートを作り、気づきや伝達事項を書き入れ、共通認識を持つようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	精神状態や身体障害の程度に合わせて移動や入浴介助など考えてしている。また、通院に同伴したり、事業所に往診に来てもらっている。必要時医師の指示を受け、看護師が点滴や処置を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長や組長の方に相談したり、近隣の方から暖房器具や飾り物などを頂いたりしている。消防署からの避難訓練の指導をもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、事業所に往診に来て貰っている。電話で相談したり、必要時は臨時に往診も来て頂きお世話になっている。	殆どの入居者は内科・整形外科医による往診を受ける。緊急時には相談にのっていただいている。かかりつけ医のある方は家族が同行し受診する。	往診時の記録を残されたい。管理者は認知症専門医の受診も将来的には考えているとのことである。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師が在籍し、常に適切な相談を受けられる体制になっており、かかりつけ医や医療機関との橋渡しをしている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>面会時に、医師や看護師になるべく話を聞き、情報を頂いている。退院後、直ぐに対応できるようにしている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>現在のところ、そこまで重度な方は居ないが、かかりつけ医の往診時に相談にのってもらっている。医師の意見と本人・家族の要望に応じ、対応するようにしている。</p>	<p>重度化した時の看取りについて入居時に説明している。家族の意向を汲んで看取りをすることも考えている。管理者は体制、医療・看護の連携の整備など今後の課題と考えている。</p>	<p>終末期支援のあり方について職員体制、医師、医療機関との連携を得ながらチームで支援していくことを視野に入れている。そのためには看取り指針も作り体制の整備に努めて欲しい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護師を中心に研修し、転倒や薬の管理等での事故防止に心がけている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署からの訓練を定期的に行っている。内部研修の充実にも務めている。</p>	<p>消防署による避難訓練を実施している。当初ベランダへの避難指示であったが、難しく火元から離れることになった。備蓄品は順次整備してゆく方針である。</p>	<p>災害が起こった時に冷静に避難することが求められる。そのためにも、様々な場合を想定した日常的訓練を取り入れ、地域の方々の協力が得られると心強いと思われる。備蓄品の整備を進められたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>内部研修や朝礼、スタッフ研修などで、対応の仕方を学習し、言葉がけ時の気になる言葉話し合い、時に指摘したりしている。</p> <p>職員は入居者に対し親しく接して和気藹々の様子であった。入居者のプライドを大切に目上の人として接し、その人なりのペースで無理強いをせず希望が言えるようにしている。</p>	<p>親しみある対応と馴れ馴れしいとの区別は難しいが入居者の気持ちを大切にこれからも対応されたい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>散歩、買い物、塗り絵や裁縫など本人の希望や残存能力に沿うようにして活動している。</p>	
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>歩行訓練のため、散歩などは積極的に取り入れているが、本人に確認を取ってから出かけている。お弁当やおやつを持っていったり、季節の花などを楽しんでいる。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>馴染みの美容院に連れて行ってもらったり、自分でお化粧をしたり、洋服は自分で選んで着てもらっている。</p>	
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>アレルギーや嫌いなものは好みに合わせた献立にしたり、材料の下ごしらえや、後片付けが出来る人には、職員と一緒にして貰っている。</p>	<p>高齢者の楽しみの一つは「食の楽しみ」と言える。ホームの美味しい食事はもとより、ファミリーレストランに出かけたり、行事食を皆で作ったり、気分転換と食の楽しみを満たす支援の継続ををお願いする。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分量を記録し把握している。看護師を中心に職員全員で見守り、援助している。</p>	
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>歯科医の検診を受けている。職員が見守り援助し、毎食後、全員歯磨き、義歯の人は外して洗浄、夜は洗浄液に浸けて保管している。</p>	
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>職員全員で自立に向けた支援をしている。トイレ行きを促し、なるべく自力でトイレに行き、可能な限り、自力で出来るように仕向けている。</p>	<p>排泄の自立は若い頃は誰しも望んでいることであり、自立排泄は意欲の回復と身体機能向上につながる。パターンをつかみ、若い時の思いを続けられるよう支援していただきたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>看護師を中心に勉強会をもち、実際に役立てている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>看護師を中心に事故に気をつけた楽しい入浴を心がけている。各人の、その日の体調に合わせて、入浴をして貰っている。</p>	<p>週3回を目安に支援している。1日5～6人が入浴する。感染症対策で1人づつお湯は換えている。入浴を拒む入居者には言葉かけなどにより安心して入浴出来るようにしている。季節により柚湯をしている。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>前夜の睡眠状況や疲労の状態に合わせて、随時昼寝や休息をとってもらっている。昼夜の活動の区別をはっきりつけて、夜間気持ちよく眠れるよう支援している</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>看護師を中心に介護職全員が服薬について研修を受け、理解し、服薬支援をしている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食事や洗濯物の手伝いの役割を持ってもらったり、レクリエーション週間予定表を作り、毎日楽しみごとや気分転換をしてもらい、張り合いのある日々を過ごしている。</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>体力に応じた距離の散歩をしている。季節に応じて、花見をしたり、ドライブを行っている。</p>	<p>散歩に丁度良い距離に妙顕山本龍寺があり日常的に出かけ、朝摘み野菜を買って来ることもある。又公園におにぎりを持って行ったり、車で耳原公園に桜、新緑、もみじを見に行っている。</p>	<p>これからは買い物にも一緒に行きたいと管理者は考えている。お金が使える方が殆どである。外出や、買い物は心身機能の回復の複合的効果が期待できる、更なる支援をお願いする。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分でお金を持っており、散歩やバザーなどへ職員と一緒にいき、買い物をしてもらっている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が出来ない場合は、手伝い、電話を掛けられるようにしている。</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>施設内全体バリアフリーにしている。玄関の段差はスロープにしている。居間兼食堂は広々として、大きな窓から自然の景色が見え、採光も良い。広い廊下は車椅子でも通りやすい。</p>	<p>居間、事務所、台所とつながっていて開放感がある。テーブルも分けて置かれ、気の合う人と座ることが出来る。入居者や小規模多機能ホームの利用者の作品が飾られ、窓も大きく取られ明るい居間である。本棚には桜の名所や動物の写真集があり「柴田トヨさんの詩集」や雑誌などもありました。</p>	<p>昔を思い出す懐かしい物も取り入れ、大人の方のくつろぐリビングになるよう飾り付けられると落ち着いた雰囲気になり温かな環境が更に増すと思われる。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間兼食堂では好きな場所に座って貰っている。多目的室や広い廊下で人と離れて静かに過ごしてもらえるようにしている。</p>		
54	20 <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたものや本人の好みのもを持ってきてもらっている</p>	<p>居室は若い頃の写真、親族の写真や飾り、仏壇など思いの物を持ち込んで、自分の部屋として設えられている。光が入って明るく認知症にとってよいことである。日中自分の部屋でラジオを聞いている入居者もいた。</p>	<p>カレンダー・時計は殆ど揃っていたが、足りない部屋には見当識予防・回復、家庭的な雰囲気作りのため設置していただきたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者同士の助け合いなど、積極的に自分のできる事を支援している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない